

第5学年 家庭科学習指導案

い組 男子 18名 女子 18名 計 36名
指 導 者 大 久 保 あ い

1 題 材 小物作りにチャレンジ

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

家庭科の学習が始まり、自分の生活を振り返り周りの人々に支えられていることを確認したり、2学年間の学習の見直しをもったりする「はじめまして家庭科～家族の一人として～」の学習を通し、2年後の目指す自分の姿を明らかにした子どもたちは「〇〇ができるようになりたい」という意欲が高まっている。また、家族の一員としての自分の役割を考える活動を通して、家族の役割や家族のためにできることは何かを考え、実践してみたいという願いをもっている。

そこで、本題材では布や布製品のよさを考え、自分の作りたい物のアイディアスケッチをもとに試し作りをし、目的に応じた縫い方等の工夫をしながら小物作りをする活動を通して布製品のよさに気づき、針と糸を使って安全に手縫いができるようになることで自分で生活を楽しむ物を作ることのよさを実感させることをねらっている。さらに、縫う部分や使用目的に応じて縫い方を工夫することで、より使いやすく丈夫で見た目もよい小物が作れることから、家族のために喜んでもらえるものを作ろうとする実践的な態度を育てることもねらっている。身近にある布製品のような生活に必要な役立つものを自分で作れた達成感や裁縫用具を正しく使うことができた自信から、成長した自分に気づき「家庭でもできそうだ。」「やってみよう。」という意欲を高めることへとつながっていく。

これらの学習は、布端の始末をしなくてもよい・加工しやすいといったよさのある古着を生かし、目的をもって生活に役立つ物を製作したり、手縫いやミシン縫いの特徴を生かして目的に応じた縫い方を選び手順や方法を吟味しながら製作したりすることができる学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

布には保温性、通気性、伸縮性があり、私たちはそれらの特徴を生かして日常の衣服として布を使用している。また、布には柔らかい、肌触りがよい、色や模様、厚さが様々であるといった特徴があり、私たちの生活の中で様々な場面や場所で使われ、生活になくてはならないものとなっている。布には平織りや綾織りといった織物や編み物、フェルトといった様々な種類があり、それらの特徴が生かされた布製品は私たちの生活を楽しくしたり便利にしたりしている。また、家族との交流に役立つといった一面もある。

そこで、本題材では布のよさをふりかえり、生活に役立っている布製品のように自分の必要とする物を製作する。製作にあたっては、①しるしが付けやすい、②裁ちやすい、③ほつれにくい、④厚みがあり針を通しやすく縫いやすいといった特徴のあるフェルトを使用させることで、裁縫経験の少ない子どもでも製作しやすいようにする。製作する物や縫う部分に応じて丈夫に縫ったり、縫い目の幅を工夫したりするなど、目的に応じた縫い方の工夫を知り、それらの工夫を活用して縫う部分にふさわしい縫い方を考え手縫いを用いて製作することができるようにする。その際、試し縫いをする活動を通して、糸の通し方、玉結び・玉留めの必要性やその方法、丈夫に縫ったり見た目よく縫ったりするための工夫などを考えたり調べたりする活動を大切にしていく。それらの活動については、自分の気づきを発表したり、友達の工夫を聞いたりすることを重視し、自分の製作に生かせるようにしていく。

具体的には、身の回りの布製品を見つめ直し、自分で工夫できるという手縫いのよさを感じながら試し作りをして、より使いやすく、見た目よく、丈夫な小物を作るにはどのような縫い方の工夫ができるのだろうかという課題意識を高めるようにする。また観察や実習を通して玉結び・

玉留めの仕方を調べたり手縫いの方法や手順を確認したりし、友達と学び合いながら作ろうという気持ちを高めさせる。さらに発表会を通して、縫い方を工夫するよさに気付いたり自分で工夫して作る喜びを味わったりすることで、自分の成長に気付くことができるようにする。

これらの学習を通して、手縫いのよさに気づき、今後の家庭生活においても自分で必要なものを考え、工夫して製作していこうとする実践的な態度を高めることができるようにする。

(3) 児童の実態（質問紙法、複数回答有り）

<p>① 家庭での手伝いの経験 食事作り 14, 洗濯物（干す・取りこむ・たたむ）10, 風呂掃除 7 食器洗い 5, 食器の準備 4, 掃除 2, 整理・整頓, 靴並べ, 小物作り 洗面台掃除, ふとんたたみ, アイロンがけ, 配膳 1</p> <p>② 家庭科の学習がどのように生活に生かせるか 将来一人暮らしをしたとき 8, 家の手伝い 7, 今の生活 6, 大人になっ てから 5, 自分のことは自分でできる, 母の役に立てる 3 必要な物を作る, 料理ができる, 今より上手になれる, 教科書の整 理に役立つ, カッコいい大人になれる 1</p> <p>③ 布のもつよさ 洗濯できる, やわらかい 6, やぶれにくい 5, 肌触りがよい 4 気持ちいい 4, 長く使える 3, 安心する 2, 軽い, たためる, 安全 破れても直せる, 使いやすい 1</p> <p>④ 手作りの布製品のよさ 気持ちが伝わる 10, 自分に合ったものが作れる 8, 世界に一つだけ, 長く使いたくなる, 丈夫にできる, あたたかい, 長持ちする 2, 安心 して使える, 自分のアイデアで作れる, やわらかい, 自慢できる, 汚れが落とせる, 自分の個性が出せる, うれしくなる, 愛着がわく, 喜んでもらえる 1</p> <p>⑤ 手縫いで製作した経験 ある 24, ない 11</p> <p>⑥ 手縫いをするときに気を付けること 針が指に刺さらないようにする 23, 針を振り回さない 4, 針の向きを 考える, 手の位置 3, 針から目を離さない, 針の使い方 2</p> <p>⑦ 学び方 得意な人や家族にインタビュー 15, 本 11, 教科書, インターネット 9, 資料, 友達にアドバイスをもらう 1</p>	<p>本学級の子どもたちは、①から、家庭での手伝いをしていることが分かる。これは子どもたちが家庭生活において、自分のできることに積極的に取り組んでいると考えられる。②から、家庭科の学習が今や将来の自分の生活に役立つから必要であるということを理解している。つまり、子どもたちは家庭科の学習と実際の生活がつながっているということには気付いている。しかし、具体的にどのようなことが生活の何に生かせるかということころまでは気付いていない。③から、身の回りにある布のよさを実感していることから布の特徴を理解できていることが分かる。また、④から、既製の布製品と手作りのものとの比較によって、「気持ちが伝わる」といった相手に応じた製作</p>
---	--

のよさに気付いている子どもがいることが分かる。しかし、「自分に合ったもの」を作るために具体的にどのような工夫ができるかまでは気付いていないと考えられる。⑤から、大半の児童に手縫いの経験があることが分かるが、⑥から手縫いをする際には針に関する安全面についての回答が多い。④で手作りに「気持ちが伝わる」「あたたかい」「うれしくなる」「喜んでもらえる」と回答しているにもかかわらず、実際に作る時には相手意識や使用目的に応じた製作の工夫を意識できていないことが分かる。

また、⑦から学び方については実際にやって確かめたいと考えている子どもがいないことが分かる。これはよりよくする工夫を追求できる実習のよさに気付いていないためだと考える。

このようなことから、子どもたちの家庭科で学習したことを家庭で生かしたいという思いと聞いたり調べたりして学習していきたいという気持ちを大切にしながら、実際に製作実習をする活動を通して、小物を手作りするよさに気付かせるとともに、基本的な知識、技能の定着や生活を工夫する力を身につけていけるようにしたい。

(4) 指導上の留意点

ア 試し作りを行い、その結果から課題を明確につかむことができるようにするために、「使いやすさ」「丈夫さ」「見た目のよさ」といった視点をもとに、試し作りをふり返らせ、解決策と製作への見通しをもたせる。

イ 試し作りから見出した課題を解決するために追求した解決策についての情報交換を行う。その際、子どもの考えに対して根拠を明らかにさせることで、考えを確かなものにしていく。明らかになった課題については写真や映像を活用して発表し、自分の製作に生かせるように場を設定する。また、製作の際には、裁縫用具の安全管理、扱い方を確かめながら定着を図っていく。

ウ 自分の成長を実感することができるようにするために作品の発表会を行う。自分や友達の工夫の仕方や工夫のよさを全体で話し合い、価値付けていく。さらに、今後の家庭生活における

自分の姿を思い描かせ、家庭での実践意欲を高めるようにする。

3 目 標

- (1) 布や布製品のよさに気付き、目的に応じて工夫して製作できる手縫いのよさを進んで見つけようとするができる。
- (2) 手縫いの方法や手順を比較したり、試し作りの結果を課題と関係付けたりして自分の製作に生かすことができる。
- (3) 観察や実習、友達との情報交換等を通して正しく安全な裁縫用具の使い方や手縫いの仕方が分かり、目的に応じた小物作りをするための工夫を見出すことができる。

4 指導計画

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
みつめる	布って便利だな。	1 布製品や布のよさについて話し合い、小物作りをするための学級のテーマを決める。① 使いやすい、見た目よく、丈夫な小物を作ろう。	○ 生活の中で布製品がどのように役立っているかを確認させるために、身の回りの布製品を持ち寄る。 ○ 製作に対する見通しをもたせるために、アイディアスケッチをかかせる。
つかむ	手作りの小物を作りたいな。	2 裁縫用具の使い方を調べ、試し作りの計画を立てる。② 使いやすい、見た目よく、丈夫な小物を作るためにはどのような工夫が必要だろうか。	○ 安全に裁縫用具を使用することができるようにするために、名称や使い方を調べさせ、具体的な使用場面を考えさせる。
見通す	裁縫用具の使い方が分かったよ。早く作りたいな。	3 試し作りをして、問題を見出す。 ③④ (本時) 〈問題〉 〈課題〉	○ 製作意欲を高めるために、これまでの生活経験や学習を生かして、どのようなことを解決すればよりよいものが作れるかを考えさせる。 ○ 子どもたちが自主的に活動に取り組んだり、課題に対してわかったことを積極的に情報交換したりすることができるようにするために、作りたい物が同じ子ども同士でグループを編成し、教え合いながら製作できるようにする。
追求する	すぐにほどけてしまう。縫い方を工夫できないかな。	せっかく糸を通して布を通り抜けてしまう。いい方法はないかな。	○ これまでの生活経験や学習を生かして、どのようなことを解決すればよりよいものが作れるかを考えさせる。
	糸がほどけないようにするために玉結びと玉留めが必要だ。	縫った後、糸が抜けてしまう。どうやって止めたらいいのかな。	○ 子どもたちが自主的に活動に取り組んだり、課題に対してわかったことを積極的に情報交換したりすることができるようにするために、作りたい物が同じ子ども同士でグループを編成し、教え合いながら製作できるようにする。
	返し縫いをするとう丈夫に縫えるよ。ひもの通し口は返し縫いにしよう。	縫い目がばらばらだ。もっときれいに縫いたいな。 丈夫にするにはどんな縫い方があるのかな。	玉結び・玉留めの必要性・ 針の運び方 縫い幅 なみ縫い 返し縫い かがり縫い など
追求める	返し縫いをするとう丈夫に縫えるよ。ひもの通し口は返し縫いにしよう。	4 試し作りの結果を基に、個々の課題の解決策を話し合う。⑤⑥ 使いやすさ 大きさ、形 見た目のよさ 縫い目、形 じょうぶさ 縫い方 目的に応じて形や大きさを決めたり、縫う部分に応じて縫い方を工夫すればいい。	○ 自分の課題に対する解決方法を明らかにするために解決策を話し合わせる。その際、根拠を明確にするために「○だから～したら使いやすくなる。」というように具体的な言葉で説明したり、分かりやすく図示させたりさせる。
まとめる・生活化への意欲付け	縫い目を細かくして丈夫に縫おう。	5 ボタンを付けるよさや必要性を話し合い、ボタンの付け方について調べる。⑦ ○ 使いやすくなる。 ○ 見た目がかわいい。 ○ じょうぶになる。	○ 手順や方法を理解させるために、実際の様子を確認したり観察したりできるように視聴覚機器を活用する。
	ボタンを付けるときは布の厚さの分糸を巻き付ける必要があるんだ。	6 自分の課題や解決したことを基に、アイディアスケッチを見直し、自分の製作したいものを製作する。⑧⑨	○ 意欲的に製作に取り組ませるために、解決した課題を基に、アイディアスケッチを見直させ、製作の準備や手順を確認させる。
	妹にもペンケースを作ろう。喜んでくれるかな。	7 作品の発表会をし、これからの生活でやってみたいことや生かせることについて話し合う。⑩	○ 自分の成長を実感できるようにするために試し作りや追求活動、製作を振り返らせ、これまでの自分や導入時に想定したなりたい自分との比較をする。

5 本 時（4 / 10）

(1) 目 標

試し作りから自分の製作の問題点について考え、結果を比較したり関係付けたりして、使いやすく、見た目よく、丈夫な小物を作るための工夫の仕方について考えることができる。

(2) 本時の展開にあたって

玉結び・玉留めや縫い方の工夫、ボタンの付け方の必要性を実感し、できるようになりたいという思いをもたせることができるように試し作りを行い、問題点を çıkさせるようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ								
みつめる・つかむ	<p>1 学級のテーマを確認し、学習課題を設定する。 〈学級のテーマ〉</p> <p>使いやすく、見た目よく、じょうぶな小物を作ろう。</p> <p>〈学習課題〉</p> <p>試し作りの結果を自分の製作に生かすにはどうしたらいいのだろう。</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習に意欲的に取り組ませるため学級のテーマを確認し、子どもの言葉で本時のめあてを設定する。 ○ 「使いやすく」「見た目よく」「丈夫な小物を作る」という意識をもたせるために、前時までの試し作りで気付いたことを発表し振り返らせる。 ○ 安全に作業を進めることができるようにするために、針やはさみなどの扱い方について掲示資料で確認する。 								
見通す	<p>2 作業の進め方の確認をし、問題点を確認しながら試し作りの続きをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に気付くことができるようにするために、試し作りで感じた「もっとこうしたい」という思いを発表させ、友達の意見や作品と比較したり関係付けたりさせる。 ○ 課題や解決する具体的な方法を考えることができるようにするために、試し作りの結果を発表させる際には実際の作品をスクリーンに提示しながら、具体的にどの部分がどのように問題であるかを説明させる。 								
追求する	<p>3 試し作りを振り返り、問題点を出し合い、解決したい課題を設定する。</p> <p>〈試し作りの結果〉</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>糸が布を通りぬけてしまう。</td> <td>縫い目がばらばら。</td> <td>糸端がほどける。</td> <td>縫い方を工夫したい。</td> </tr> </table> <p>〈解決したい課題〉</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>玉結び・玉留めの仕方</td> <td>針の運び方</td> <td>縫い幅</td> <td>様々な縫い方</td> </tr> </table> <p>なみ縫いをしてみたけど、ペンを入れると縫い目にすき間ができた。これだと丈夫じゃない。</p> <p>どのようにしたら縫い目が目立たないように縫えるのだろう。</p> <p>どのようにしたら糸がほどけない、丈夫な縫い方ができるのだろう。</p>	糸が布を通りぬけてしまう。	縫い目がばらばら。	糸端がほどける。	縫い方を工夫したい。	玉結び・玉留めの仕方	針の運び方	縫い幅	様々な縫い方	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を明確につかませるために「うまくできなかった」ではなく、「この部分の縫い目がまっすぐにならず、見た目よく縫えなかった。」というように具体的な言葉で発表させる。 ○ 自分の製作に必要なことを解決できるような課題を設定することができるようにするために、試し作りの結果の問題点について原因を考えさせるようにする。 ○ 解決したい課題を設定させるためにテーマを振り返らせる。その際、課題解決の必要性を意識させることができるようにするために課題設定の理由も考えさせる。
糸が布を通りぬけてしまう。	縫い目がばらばら。	糸端がほどける。	縫い方を工夫したい。								
玉結び・玉留めの仕方	針の運び方	縫い幅	様々な縫い方								
まとめる・生活化への意欲付け	<p>4 自分の追求したい課題を決める。</p> <p>どのようにしたら縫い目が目立たないように縫えるのだろう。</p> <p>どのようにしたら糸がほどけない、丈夫な縫い方ができるのだろう。</p> <p>5 本時の学習で分かったことを話し合い、学習のまとめをする。</p> <p>目的に応じて縫い方を変えたり、玉結び・玉留め等をしたりすればよい。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時への意欲付けをするために、自分がわかったことや今後解決できそうなことを振り返らせる。 								